

コアネットのありかた

—いつまでもノン、ノンと言いつつ続けますか—

ふたたび“カモメになったペンギン”をコア・ネットメンバーに紹介してから、コア・ネットのありかたについて沢山のご意見が寄せられ、サイボウズを開くのが楽しみです。今のところ発信先はコア・ネットメンバーに限られていますが、メンバーでない皆様のご意見はいかがでしょう。よかったこと、そうでもないこと、これは仕事か、ボランティア活動か、理事長にいつも急ぎ立てられる、理事長のいう楽しい職場とは一体何か、何も楽しいことはないではないか……。まだまだ沢山のご意見があることと思います。

コア・ネット・グループは、はまゆう会が法人設立の理念を定め、相生プロジェクト（相生リハビリテーションクリニック、社会福祉法人久岐の海会ケアハウスあいおい）が始まった10年前に、はまゆう会を少しでも働きやすい職場にしようとの思いで、自由に意見を述べ、記録はとらない、自由参加の問題提起の場としてのはまゆう会を考える有志の会であったと記憶しています。はまゆう会が20周年を迎えるにあたって、“飛躍”をテーマに掲げるほどに発展したことはコア・ネット・グループの活動に負うところが大きく、その分実務的にも潜在的にも負担をおかけし、本当に楽しい活動ができたかと反省させられます。

はまゆう会をよくしようとして発足したコア・ネットの存在感やポジショニングを具体的に示す活動の場として、職場環境改善を意図したはまゆう会制度である企業文化育成事業の立ち上げは、コアネットがより発展的に活動ができるのではと期待したのですが、“それって仕事ではないの……”との当然の疑問がでてきました。まさにそれは仕事でもあり、組織内ボランティア活動でもあり、その人の持つ心持ちの濃淡としては常に抱く問題意識として避けられないものでしょう。

でもここ10年はまゆう会は良かれ悪しかれ随分変わったとは思いませんか。苦しくはあってもそこに楽しいことはありませんでしたか。一緒に何かをやろうとする仲間ができませんでしたか。コア・ネットは変革の起爆剤あるいはスパイス役であったかも知れませんが、これ迄に培った潜在力と継続力でいろんなことが職場で具現化されたように思いますが、いかがでしょうか。

政治が変わり、少子高齢化社会の中で医療や社会環境が変わるにつれ私共はまゆう会も変わらざるを得ません。当然コア・ネットも成長する過程で悩み、変わらざるを得ないと思います。ただ変わらないのは、いかに楽しく働くにはどうしたらいいか、その意識をいかに持続していくことこそが大切ではないでしょうか。

皆様にとってはまゆう会の企業満足度はいかがですか、出勤したらあなたを待ってくれる仲間がいますか、一人の人間として、職業人としてあつかってもらっていますか。はまゆう会は創立20周年にあたり“飛躍”をテーマに掲げました。この“飛”と“躍”とは易経では六龍の第五段階と第四段階にあたり、もう既に事が成った時に“躍龍、飛龍”の時と言われています。次に来る六龍は亢龍と云って一つの達成に行き着き物事が窮まって、これから衰退の道をたどることを意味します。

ではどうしたらいいのでしょうか、それでもノン、ノンと言いつつ続けますか。

読まれたことのない人ははまゆう倶楽部に“カモメになったペンギン”が置いてあります。

平成22年8月7日
理事長 市丸 喜一郎